



情報科学芸術大学院大学附属図書館

vol. 6
2017.3

IAMAS 図書館便り

IAMAS [イアマス] とは、情報科学芸術大学院大学の英語表記の頭文字を取った略称です。



伊村靖子著書

特集 芸術学/日本戦後美術史研究 **伊村靖子**
→ 自著を語る / 人生を変えた一冊 / 学生に薦める一冊

- 私のイチオシ
- 館長コラム
- お知らせ

特集 芸術学／日本戦後美術史研究 伊村靖子 (いむら やすこ)

この特集では、IAMASの教員に、自著・人生を変えた本・お薦めの本などを紹介してもらいます。

第6回は、2016年度からIAMASの教員となった伊村靖子講師です。



国際シンポジウム「メディアと芸術のあいだ」/2015年10月23、25日

→自著を語る

東野芳明著、松井茂+伊村靖子編『虚像の時代 東野芳明美術批評選』

東野芳明(1930～2005年)は、戦後美術の転換期であった1960年代に中心的な役割を担い始めた批評家のひとりである。アクション・ペインティング、ネオ・ダダをはじめとするアメリカ美術の紹介者として、あるいはジャスパー・ジョーンズやマルセル・デュシャンの研究などによって知られる一方で、60年代を通じて「反芸術」や「発注芸術」などの造語によって、日本の美術界に議論を巻き起こし、強い影響を与えた。『虚像の時代 東野芳明美術批評選』は自著ではないが、編者の立場としては、同時代美術の中に従来の美術史観との断絶を見出し、新しい芸術のあり方を模索していた東野の先見の明に注目してほしい。その鍵となる「虚像の時代」とは、テレビに代表されるようなメディア環境の変化を背景に、美術がもはや自立したジャンルではありえなくなったという主張を意味している。ポップ・アートをはじめとするマス・コミュニケーション、マス・プロダクションを主題とした美術の登場のみならず、写真や映像、印刷媒体を含む芸術メディアの拡張に対して活発な批評が行われるのも、この時代の特徴である。現在のメディア環境と比較しながら、批評意識をもって読み進めてみてほしい。



河出書房新社/2013年

→人生を変えた一冊

若桑みどり『イメージを読む』

私にとって美術との出会いは、中学生の時に訪れた大原美術館で見たパウル・クレーの《燭台》(1937～38年)だ。古今東西の名品を収集した事業家・大原孫三郎のコレクションのなかでも小さくてさりげない作品なのだが、なぜか惹きつけられたのを覚えている。その日に見た、ルチオ・フォンタナの《空間概念 期待》(1961年)には、どうしてこれが作品なのかという素朴な驚きと怒りにも似た感情を覚えた。ごく普通の鑑賞者だったのである。

数年後再び大原美術館を訪ねると、事情は一変した。単色の画面に鋭利な切り込みを入れるシンプルなやり方で、形而上学的な空間を扱ってきた絵画の限界と可能性を鮮やかに示したフォンタナの作品が、突出した主張をもってせまってきたのだ。それは自分の価値観が覆される強烈な体験と同時に、美術史の断面を意識させるきっかけでもあった。

若桑みどりの『イメージを読む』は、講義録をもとにまとめられた初学者向けの本だ。ミケランジェロ、レオナルド・ダ・ヴィンチ、デューラー、ジョルジョーネという西洋美術の巨匠の作品の様式論、図像解釈学、図像学を中心に、美術史の基礎理論と当時の最先端の解釈がみっちりと盛り込まれている。そして何より、読み物として魅力的だ。絵画がマスメディアであった時代の作例を通して、絵をつくる・みることの間にあるコミュニケーションがなぜ時代を超えて社会性をもちうるのかがピリッとしたユーモアとともに伝わってくる一冊である。



筑摩書房/1993年
※書影は図書館所蔵のちくま学芸文庫版(2005年)

→学生に薦める一冊

外山紀久子『帰宅しない放蕩娘 舞踏のモダニズムとポストモダニズム』

「人生を変えた一冊」とは打って変わり、20世紀のポストモダニズムの諸概念--「前衛」と「キッチュ」/「ハイ」（高尚な芸術）と「ロウ」（大衆文化）という対立構図の解体、それに伴う諸様式の混交あるいはパロディ、大衆的な親しみやすさと同時に一部の専門家にもみ解読可能な二重コード化の作業、オリジナリティや真正性といったモダニスト的な価値への疑問といった価値観が、アメリカ現代舞踏においていかに展開されたかを論じた一冊である。マース・カニングハムに始まり、イヴォンヌ・レイナー、トリシャ・ブラウン、スティーヴ・パクストンらを主要メンバーとするジャドソン・グループ、トワイラ・サーブ、マーク・モリスらの80年代にいたる活動を扱いつつも、言説上の展開に重点を置いた20世紀文化論である。



勁草書房/1999年

私のイチオシ

卒業を控えた本学2年生のみなさんにお薦めの本を紹介してもらいました。図書館で展示しますので、ぜひご利用ください。(似顔絵：後藤祐希さん)

二村ヒトシ『恋とセックスで幸せになる秘密』

他のIAMAS生が絶対におすすめしないであろう本を紹介しようと思いましたが、ちなみに全然セックスの話ではありません。自己肯定感が低い人間が「心の穴」と向き合って生きていくための本であり、「自己肯定」に関する哲学書です。この本に載ってる「インチキ自己肯定」じゃなく、ちゃんと自己肯定しながら創作していけるようになりたいですね。ぼくはなりたいです。(イースト・プレス/2011年)



佐野和哉さん



綾屋紗月、熊谷晋一郎『つながりの作法 同じでもなく違うでもなく』

著者の綾屋はアスペルガー症候群、熊谷は脳性麻痺という障害当事者で、二人の共通の困難さである、人とのつながりの確保を軸に分析しています。当事者ならではの繊細な表現で症状が示されていて、見かけの認識と異なることに驚きも感じます。最も残ったのは、障害者と健全者は「地続き」であることです。地続きの上に壁を作れという人にも読んで欲しい一冊です。(NHK出版/2010年)



篠田幸雄さん



山縣良和、坂部三樹郎『ファッションは魔法』

『今こそわけのわからない"もや"を作り出すファッションの力によって世界を「再魔術化」しなければならぬ。』独自の哲学でクリエイションの常識を覆してきた山縣と坂部が、ファッションの先にある新しい人間観を提示します。すべてのクリエイションに通ずる「もや=魔法」の存在、ファッションの知識がなくてもワクワク読める一冊です！(朝日出版社/2013年)

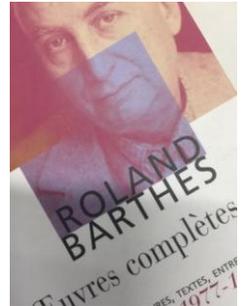


丹羽乃乃さん



館長コラム その6 書物に愛されるということ

かつて「書物愛」ということがしばしば語られてきた。愛を語ることすら困難で滑稽で気恥ずかしい現代に、書物について、あるいは書物への愛を語る事が可能であろうか。書物愛は単なる物質的耽溺でもなければ妄想狂的な世界観でもない。そのどちらとも言えるが、やはり「読む」という行為が前提されることになる。読むことは、書物への愛、あるいは書物と愛を語り合うこと、とっておこう。ラカンは「愛とは自分のもっていないものを与えることである」と述べている。「他者のなかに欠如を置く」とも書いている。つまりは読む者は書物に対する圧倒的な無知、救いがたい劣等感を抱くがゆえに、そこに愛の炎を燃やさざるをえないし、激しい葛藤に身を苛まれることにもなるだろう。だが、書物の側からは決して愛を与えてくれることはしない。書物はただ愛されるためにそこにある。読む者は自己の欠如を書物によって埋めるのではない、欠如そのものを、癒やされない枯渇を、書物に包埋するのだ。書物によって何かを得られると考えるのは読む者の傲慢である。書物は欠如を、無知を、絶望を、与えてくれるだけだ。負の贈与。それが書物からの愛であり、読む者は永遠にその愛の呪縛から解放されることはない。その苦悩、その呻吟、その悲嘆、それそのものを「読書」と呼ぶのである。



『ロラン・バルト著作集』

お知らせ

→「大人のためのブックトーク」を県図書館で開催

小林昌廣館長による「今週の一冊」拡大版、「大人のためのブックトーク」を上半期に続き、2016年12月24日と2017年2月18日に岐阜県図書館にて開催しました。館長が紹介した本は、『胎児の世界』、『略奪した文化 戦争と図書』、『火あぶりにされたサンタクローズ』、『ふわとろ』、『死に至る病』、『笑いと治癒力』。このイベントは2017年度も引き続き開催する予定です。ご期待ください。

→資料展示 2016.11～2017.2

資料展示として、Ogaki Mini Maker Faire (12月) にあわせた「Make:本展示」(11月～1月)、修士論文執筆のための「論文作法の本展示」(12月～2月)、形や素材から本を紹介する「装丁で選ぶ本展示」(1月～)、「IAMAS2017/20周年資料展示」(2月～)などを開催しました。また、読書週間には展示「芋づる式読書～種芋を探せ!～」(10月～11月)、年末には展示「2016年の話題」(12月)、新年には「未来」の本展示(1月～2月)など、季節にちなむ展示も行いました。

→蔵書点検に伴う休館

蔵書点検を行うため、2017年3月13日から17日まで休館します。点検期間中は貸出・閲覧等のすべてのサービスを停止します。ご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。なお、図書の返却については、返却ボックスをご利用ください。

→卒業する2年生の皆さんへ

ご卒業おめでとうございます。皆さんにとって、IAMASでの生活はあっという間だったのではないのでしょうか。ゆっくり本も読めなかったのでは(笑)。今後はそれぞれ場で活動されると思いますが、概ねどこにでも図書館があります。仕事や研究のため、また疲れた時の避難所としても使ってみてはいかがでしょうか。なお、IAMAS図書館は、卒業生は一般の方より良い条件で利用できます。お近くの方はぜひ!



大人のためのブックトーク



展示「2016年の話題」